

平成 18 年度草地畜産  
生産性向上対策事業

# 岡山県における酪農経営への 和牛導入の現状と課題

平成 19 年 1 月

社団法人岡山県畜産協会  
岡山県総合畜産センター

## 岡山県における酪農経営への和牛導入の現状と課題

### 1.目的

おかやま酪農業協同組合では平成15年以降、毎年2月及び8月1日時点での酪農家の飼育頭数を調査し、「おからく頭数現況調査」にとりまとめて公表している。

この調査をもとに、県下の酪農家における和牛の飼育動向をみると、表1のとおり戸数は毎年増加傾向で平成18年2月は47戸となっており、頭数は年200頭前後で推移している。

これは近年、全国的な牛乳消費の減少で生乳の計画生産が強化される方向にあり、酪農経営の安定維持の方策として和牛導入に取り組む農家が増えているものと推察される。このような酪農経営への和牛導入によって、酪農経営の安定維持を図ることが出来れば、和牛増頭とともに酪農家戸数減少の歯止め対策として有効ではないかと考えられる。

一方、このように和牛導入した酪農家では新たな和牛飼育管理技術の対応や、乳用後継牛の確保等の検討課題も派生している。

このため、県下の酪農家での和牛飼育の現状と課題を把握するため、社団法人岡山県畜産協会、岡山県総合畜産センターと共同で実態調査を実施した。

表1 県下の酪農家における和牛の飼育動向

区分	年	H			
		15	16	17	18
和牛飼育酪農家戸数	戸	38	39	44	47
和牛飼育頭数	頭	239	186	243	230

「おからく頭数現況調査」各年2月1日現在の数値

### 2.調査方法

- (1)実施期間 平成18年8月1日～8月22日
- (2)対象者 「おからく頭数現況調査」をもとに、和牛2頭以上飼育している農家を中心に23戸及び酪農経営から和牛経営に転換した農家2戸、計25戸を選定した。
- (3)方法 社団法人岡山県畜産協会及び岡山県総合畜産センター職員が、農家と面接し、別紙調査表をもとに表2の調査項目について聞き取りのうえ記入した。

表2 調査項目

経営の概要	経営者の年齢、経営形態、後継者の有無、飼育頭数
和牛導入状況	導入年度、動機、方法、飼育場所の確保、今後の取り組み
和牛の飼育管理	管理者、哺育方法、濃厚飼料、粗飼料の給与、管理面での問題点
子牛の出荷状況	出荷方法、販売成績
飼料作物の作付け	作物名、作付け面積

### 3.調査結果

選定した25戸の農家のうち、調査実施時点で4戸が和牛を飼育していないことが判明したので、調査実施農家は21戸となった。調査表にもとずいて21戸をとりまとめた結果は以下のとおりである。

なお、農家氏名、所在地は公表せず、調査農家を1～21の番号で表示した。

(1) 年齢(回答21戸)

年齢は28～78歳の範囲で、平均年齢は59歳であった。年代別では50代が10名と最も多く、60代、70代が各4名、40代2名、20代1名であった。

(2) 経営形態(回答21戸)

畜産専業経営は8戸、複合経営は13戸であった。複合経営における畜産以外の作目としては、水稻12戸、ピオーネ1戸であった。

(3) 後継者(回答21戸)

後継者が有ると回答したのは5戸、無いが15戸、後継者本人が1戸であった。

(4) 和牛導入年度(回答21戸)

和牛導入は表3のとおり平成2～16年にわたっており、特に平成12年からは毎年2～4戸の新規参入が続いていた。

表3 和牛導入年度

年度	2	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	計
戸数	1	1	1	1	1	2	3	2	4	3	2	21

(5) 和牛導入の動機(複数回答54件)

和牛導入の動機は表4のとおり、和牛に興味があったが11件と最も多く、今後の和牛導入推進にあたっての重要なポイントと考えられた。また、子牛相場の安定が8件あり、子牛の高値安定で和牛への関心がより高まったものと考えられた。

次に、所得の向上が9件、経営の補填が7件と経営対策を目的に導入に取り組んでいる農家が多い事が伺われた。一方、高齢化による導入は7件と意外に少なかった。

表4 和牛導入の動機

設 問 項 目		件数
和牛に興味があった		11
より一層の所得の向上のため		9
子牛相場が安定しているので取り組んだ		8
生乳価格が低迷しており、経営の補てんのため		7
高齢化による経営の転換のため		7
隣接した遊休農地に和牛を放牧して有効活用するため		5
労力的に余力があるので取り組んだ		3
そ の 他	酪農経営から和牛経営に転換した	2
	排泄糞尿量が少ないので環境対策として導入した	1
	E T採卵牛として導入した	1
計		54

(6) 和牛導入及び増頭の方法(複数回答47件)

和牛の導入方法は、乳牛に受精卵移植をして生まれた産子を保留、育成したのが19件で最も多く、導入和牛の産子を保留した5件を含めると、自家生産での対応が24件と半数を含めた。また、他所からの導入としては子牛市場7件、一般市場5件で市場経由したのが12件と最も多く、次いで農協等の斡旋4件、他県からの導入3件の順であった(表5)。

表5 和牛導入及び増頭の方法

設 問 項 目		件数
乳牛に受精卵移植をして生まれた産子を保留、育成した		19
子牛市場から購入した		7
一般市場から購入した		5
導入和牛の産子を保留した		5
農協等の斡旋で導入した		4
他県から導入した		3
乳牛に受精卵移植をして生まれた産子を購入し、産子を育成した		2
そ の 他	北海道で受精卵移植をした乳牛を購入し、産子を育成した	1
	家畜商の斡旋で導入した	1
計		47

(7) 和牛導入に当たっての飼育場所の確保(複数回答28件)

和牛の飼育場所としては、表6のとおり既存牛舎の使用していないスペースで対応したのが16件と最も多く、乳牛頭数を減らして対応したのは5件と意外に少なかった。

しかし、使用していない牛舎スペースがあったことは、和牛導入前から乳牛頭数が牛舎収容可能頭数より減頭していたと考えられ、時間的な差はあるが、減頭して既存牛舎で対応したのが合わせて21件と最も多かったといえる。また、牛舎を別途増設して対応したのは3件で、いずれも育成牛舎であった。

表6 飼育場所の確保

設 問 項 目		件数
既存牛舎の使用していないスペースで対応した		16
乳牛頭数を減らして既存牛舎で対応した		5
牛舎を別途増設して対応した		3
放牧場、パドック等で対応した		2
そ の 他	廃業した乳牛用の牛舎を利用	2
計		28

(8) 和牛子牛の出荷状況(回答21戸、複数回答29件)

子牛の出荷状況を表7に示した。生産した子牛は、1戸が一貫経営で経営内保留していた以外は、残る20戸全てが8ヵ月齢位まで哺育、育成し、原則として子牛市場へ出荷していた。

次に、体外受精卵の移植産子は1～2ヵ月間哺育して、毎月第1火曜日の一般市場へ出荷しているのが6件あった。

また、初乳給与直後に出荷するのが1件あったが、これは受精卵移植産子を近所の和牛農家に出荷し、哺育、育成後に地域内で保留していた。

表7 和牛子牛の出荷状況

設 問 項 目		件数
8ヵ月齢位まで哺育、育成し、子牛市場へ出荷		20
生後1～2ヵ月間哺育し出荷		6
初乳給与後に出荷		1
そ の 他	一貫経営で経営内保留	2
計		29

( 9 ) 最近の子牛市場出荷頭数の推移

全農子牛市場での出荷、販売成績を表 8 に示した。調査実施農家の最近の子牛市場出荷頭数は、平成 15 年 69 頭、16 年 89 頭、17 年 100 頭と徐々に増加傾向にあった。

また、1 戸当たりの出荷頭数も同様に平成 15 年 3.2 頭、16 年 4.2 頭、17 年 4.8 頭と増大していることから、農家の子牛販売収入は平成 15 年 1,160 千円、16 年 1,760 千円、17 年 2,100 千円という状況にあり、農家の経営面に占める子牛販売収入のウエートが徐々に増大しているものと考えられた。

次に、体重、価格を子牛市場成績と比較してみると平成 15 年は体重、価格とも市場平均を下回っていたが、16、17 年ともに若干ではあるが市場平均を上回っており、飼育管理技術の向上が図られた結果と推察された。

表 8 子牛市場での出荷、販売成績

平成 1 5	去勢	頭 数	頭	4 6	1, 6 2 9
		平均体重	k g	2 5 9	2 6 0
		平均価格	千円	3 9 2	4 1 0
	雌	頭 数	頭	2 3	1, 2 2 2
		平均体重	k g	2 3 6	2 4 3
		平均価格	千円	3 1 0	3 2 5
	総 頭 数		頭	6 9	2, 8 5 1
	" 平均体重		k g	2 5 1	2 5 2
	" 平均価格		千円	3 6 4	3 7 3
平成 1 6	去勢	頭 数	頭	5 2	1, 6 3 6
		平均体重	k g	2 6 5	2 5 9
		平均価格	千円	4 6 9	4 5 2
	雌	頭 数	頭	3 7	1, 2 5 6
		平均体重	k g	2 3 4	2 4 4
		平均価格	千円	3 5 5	3 6 9
	総 頭 数		頭	8 9	2, 8 9 2
	" 平均体重		k g	2 5 2	2 5 2
	" 平均価格		千円	4 2 1	4 1 5
平成 1 7	去勢	頭 数	頭	5 7	1, 6 7 8
		平均体重	k g	2 6 6	2 6 3
		平均価格	千円	4 8 4	4 7 5
	雌	頭 数	頭	4 3	1, 1 5 3
		平均体重	k g	2 4 7	2 4 5
		平均価格	千円	3 7 8	3 8 4
	総 頭 数		頭	1 0 0	2, 8 3 1
	" 平均体重		k g	2 5 8	2 5 6
	" 平均価格		千円	4 3 8	4 3 7

備考 1.子牛市場は全農岡山県本部総合家畜市場の子牛セリ市場成績  
2.価格は消費税抜き

(10) 和牛の飼育管理

和牛の管理者(回答 21 戸)

和牛の管理で経営主が担当しているのは 8 戸で、経営主を含めた家族で担当している 7 戸を含めると、15 戸の経営主が積極的に関与しており、妻に任せているのは 6 戸であった。

哺乳方法(回答 21 戸)

人工哺乳方式は 9 戸、母牛授乳方式は 4 戸、人工哺乳、母牛授乳方式の併用が 8 戸であった。

人工哺乳方式

ア. 代用乳の給与

- ・製品名(回答 17 戸、うち複数回答 1 戸)

6 品目が使用されており、全酪系の 3 品目が 10 戸、JA 系の 2 品目が 3 戸(うち 1 戸生乳併用)、K 社の 1 品目が 1 戸でそれぞれ給与されていた。また、生乳利用は 3 戸であった。

- ・哺乳期間(回答 17 戸)

哺乳期間は 1 ~ 100 日齢の範囲で、給与開始は 5 ~ 7 日齢が 12 戸と最も多く、終了は 90 日齢が 10 戸と多かった。

- ・給与最大日量(回答 15 戸)

給与最大日量は 0.6 ~ 1.2 kg の範囲で、平均 0.8 kg であった。  
また、生乳は 1.5 ~ 6 L の範囲であった。

- ・稀釈濃度(回答 12 戸)

倍率は 4 ~ 9 倍の範囲で平均が 6 倍であった。

- ・哺乳回数(回答 12 戸)

1 日の哺乳回数は 2 回が 7 戸、3 回が 5 戸であった。

- ・使用哺乳ビン(回答 10 戸)

容量 1.5 ~ 3 L の範囲の哺乳ビンが使用され、2 L ビンが 6 戸と最も多く使用されていた。

イ. 人工乳の給与

- ・製品名(回答 17 戸)

7 品目が使用されており、全酪系の 4 品目が 14 戸(うち 1 戸は 2 品目使用)、JA 系の 2 品目が 2 戸、K 社の 1 品目が 1 戸でそれぞれ給与されていた。また、無給与が 1 戸であった。

- ・給与期間(回答 16 戸)

給与期間は 2 ~ 120 日齢の範囲で、給与開始は 7 日齢が 9 戸で最も多く、給与終了は 90 日齢が 10 戸と最も多かった。

- ・給与最大日量(回答 16 戸)

給与最大日量は 0.8 ~ 3 kg の範囲で、平均 2.2 kg であった。



ウ.離乳時期(回答17戸、うち複数回答13戸)

離乳を代用乳中止の時期とし、回答した全ての17戸は日齢を離乳の目安としており、時期は35～100日齢の範囲で平均78日齢であった。次に、人工乳採食日量を日齢と併せて目安とするのは13戸あり、量的には0.8～3kgの範囲で平均2kgであった。また、体重を目安とするのは2戸と少なく、平均80kgであった。

エ.哺乳時のカーフハッチの利用(回答21戸)

カーフハッチを利用しない方が13戸と多く、カーフハッチを利用するは8戸であった。

母牛授乳方式

ア.人工乳の給与

・製品名(回答12戸)

4品目が使用されており、全酪系の3品目が7戸、JA系の1品目が3戸でそれぞれ給与されていた。また、無給与が2戸であった。

・給与期間(回答10戸)

給与期間は3～180日齢の範囲で、給与開始は7日齢が8戸と最も多く、終了は90日齢が5戸で最も多かった。

・給与最大日量(回答10戸)

給与最大日量は、0.8～4kgの範囲で、平均2.3kgであった。

イ.離乳時期(回答12戸、うち複数回答7戸)

離乳を親子分離の時期とし、回答した全ての12戸は日齢を目安に離乳しており、時期的には60～180日齢の範囲で平均100日齢であった。次に、人工乳採食日量を日齢と併せて目安とするのは7戸あり、0.8～4kgの範囲で平均2kgであった。体重を目安とする農家はなかった。

濃厚飼料の給与

ア.育成牛(回答21戸、うち複数回答2戸)

和牛用飼料を給与しているのが14戸と多く、乳牛と同じ飼料を給与しているのは9戸であった。

イ.成牛(回答21戸)

育成牛とは逆に、乳牛と同じ飼料を給与しているのが15戸と多く、和牛用飼料を給与しているのは6戸であった。

## 濃厚飼料の製品名

### ア.育成牛(回答21戸)

12品目が使用されており、JA系の3品目が8戸、全酪系の4品目が6戸、N社の2品目が3戸、K社、O社、M社の各1品目が各1戸でそれぞれ給与されていた。また、自家配合は1戸であった。

### イ.成牛(回答20戸)

8品目が使用されており、全酪系の3品目が9戸、JA系の2品目が3戸、T社、M社、F社の各1品目が各1戸でそれぞれ給与されており、自家配合は5戸であった。また、分娩前後のみ濃厚飼料を給与していたのが6戸あった。

## 粗飼料の給与

### ア.育成牛

- ・育成牛に給与していた粗飼料(回答21戸、複数回答35件)

育成牛に給与していた粗飼料は10種類で、内訳はチモシーが13件と最も多く、次いでオーツヘイ、スーダン、稲ワラが各4件、フェスキュー、イタリアンストロー、バミューダ、ルーサンが各2件、アルファルファ、クレイングラスが各1件であった。また、日齢で種類を変更していたのは9戸であった。

- ・粗飼料の細断状況(回答21戸)

細断せずに給与するのが13戸で多く、細断するのは8戸であったが、うち3戸は一定の日齢以降、細断していなかった。細断長は10cmが5戸と最も多かった。

### イ.成牛

- ・成牛に給与していた粗飼料(回答21戸、複数回答35件)

成牛に給与していた粗飼料は8種類で、内訳は稲ワラが6件と最も多く、次いでオーツヘイ、フェスキューが各5件、チモシー、スーダンが各4件、イタリアンストローが3件、バミューダー、クレイングラスが各1件であった。また、他に自家産ロールが4件、放牧が2件であった。

## 和牛の飼育管理技術の問題点(複数回答39件)

飼育管理面での問題点としては、子牛の発育が悪い、下痢が多いが各8件、代用乳の給与量が不明が5件、病気に弱い、粗飼料給与量、分娩時体重が小さい各1件と子牛に関するものが計24件と多かった。次に母牛の種付が悪い、飼料の給与方法が乳牛と違うが各7件、親子分離の方法1件で母牛に関しては15件であった。

また、上記以外に、分娩前後の飼料給与、過肥、子牛の体高及び体伸不足に関する問題点が示された。

(11) 今後5年間の和牛の取り組み(回答21戸)

今後、和牛を増やすと回答した農家は19戸で、調査したほとんどの農家において増頭意欲は高く、現状維持、和牛を減らす農家は各1戸であった。また、和牛を増やすと回答した農家の増頭計画は成牛5～50頭の範囲で10頭が9戸と最も多く、次いで5頭、15頭が各3戸、30頭が2戸、20頭、25頭、50頭が各1戸であった。このように、今後の和牛の取り組みは規模的には、大規模なものではなく、酪農経営を堅持しながら、10頭前後の和牛導入による複合経営の可能性を模索していくものと推察された。

(12) 飼料作物の作付状況(回答21戸)

飼料作物を作付している農家は17戸で、作付面積は延84.4 haであった。草種別作付面積は、夏作としてソルゴー17.4 ha、スーダン14.4 ha、トウモロコシ9.6 ha、グリーンミレット4.5 ha、ヒエ1 haであった。次に冬作としてはほとんどがイタリアンで36.9 ha、他にエンバク0.6 haであった。また、放牧用混播牧草として20 ha利用している農家は1戸で、飼料作物を作付けしていない農家は3戸であった。

(13) 和牛飼育しているうえで、困っている事、問題点(列挙)

牛舎関係

- ・ 今後、増頭に当たって牛舎の増設が必要になる
- ・ 育成牛が運動できるように牛舎の改造が必要
- ・ 既存の肥育牛舎を利用するので改造が必要
- ・ 育成牛舎を増設したい
- ・ 敷料の交換が手作業
- ・ 低コスト牛舎の事例を紹介してもらいたい

成牛関係

- ・ 乳牛に比べ過肥になりやすく、種付が悪い
- ・ 分娩前後の飼育管理
- ・ 発情時の鳴き声
- ・ 発情の見逃し
- ・ 優良牛の導入助成
- ・ 優良牛の保留

受精卵関係

- ・ 総合畜産センターの和牛受精卵が入手困難
- ・ 受精卵移植の受胎率向上
- ・ 優良な採卵牛の確保
- ・ 受精卵産子は抵抗力弱い
- ・ 雌雄判別受精卵の移植
- ・ 和牛受精卵の移植と乳牛後継牛の確保

経営関係

- ・和牛転換時の収入対策
- ・和牛と酪農との共存対策
- ・収入は子牛販売のみなので経営時に不安定な面がある
- ・増頭時の資金対応
- ・粗飼料自給率の向上によるコスト削減

その他

- ・水田利用した周年放牧の指導
- ・稲ワラ収集の労力
- ・子牛の白痢
- ・哺育、下痢対策

(14) 飼育頭数

乳牛

和牛導入前、後の乳牛飼育状況(酪農から和牛転換した農家2戸を除く19戸)について総頭数をみると表9のとおり、和牛導入後に、14戸が減頭しており、増加したのが4戸、増減なしが1戸であった。

次に、24ヵ月齢以上の成牛頭数でも、和牛導入後に14戸が減頭しており、増加したのが2戸、増減なしが1戸、不明が2戸であった。

このように、和牛導入に伴ってほとんどの酪農家は減頭しており、頭数的には1戸当たり総頭数で平均11頭であったが、そのうち、24ヵ月齢以上の成牛が9頭と大部分を占めた。

また、調査時の乳牛の1戸当たり平均飼育頭数は総頭数38.5頭、24ヵ月齢以上の成牛頭数24.5頭であり、規模別でも成牛20～29頭の範囲が7戸と最も多いことから、和牛導入に取り組んでいるのは、県平均を若干、下回る中規模の酪農家が中心になっているものと推察される。

表9 乳牛飼育頭数の推移

	和牛導入前	調査時	差 引	減 頭 農 家		
				戸 数	減頭数	平均頭数
総 頭 数	836 頭	731 頭	105 頭	14 戸	154 頭	11 頭
24ヵ月齢以上 成牛頭数	580	466	114	14	123	9

和牛導入前頭数は家保調査及びおからく頭数現況調査を参考

## 和牛

平成15～18年の頭数の推移は表10のとおり総頭数、24ヵ月齢以上の成牛頭数とも増加傾向であった。

また、平成15年と18年の頭数を対比してみると総頭数の伸び率は165%、24ヵ月齢以上の成牛頭数は129%であり、総頭数の方が高い伸び率であった。

これは、和牛増頭が成牛よりも哺育、育成牛の方が高い伸びであったことを示しており、和牛受精卵の移植による産子増及び、増頭計画に向けての経営内保留増加が大きな要因であるものと考えられる。

表10 和牛飼育頭数の推移

年	15	16	17	18	対比(18/15)
総頭数	145	143	190	240	165%
1戸平均	6.9	6.8	9.0	11.4	
24ヵ月齢以上の成牛頭数	78	75	91	101	129
1戸平均	3.7	3.5	4.3	4.8	

おからく頭数現況調査及び家保調査を参考

### (15) まとめ

和牛導入をしている酪農家の標準的な経営概要は次のとおりである。

経営者の年齢は60歳前後で、経営としては畜産と水稻の複合経営が主体で、後継者はいない。乳牛の飼育規模は成牛25頭位である。また、和牛は成牛5頭位を飼育している。和牛導入の動機は所得の向上、経営補てん等の経営対策とともに、和牛に興味があったのが大きな要因である。

飼育場所の確保は、乳牛頭数を減らし、既存牛舎の空スペースで対応している。

和牛導入の主な方法は乳牛に和牛受精卵を移植し、産子を保留しており、保留牛以外は8ヵ月齢位で子牛市場へ出荷している。

出荷子牛の体重、価格とも子牛市場成績に比べ同様な水準である。

和牛の飼育管理は経営者が積極的に担当している。

哺乳は代用乳を使用した人工哺乳方式が主体である。

#### ア.代用乳

製品としては全酪系が使用され、哺乳期間は5～90日齢で、給与量の最大日量は0.8kgである。希釈倍率は6倍で、哺乳回数は1日2回である。

#### イ.人工乳

製品としては全酪系が使用され、給与期間は7～90日齢で、給与量の最大日量は2.2kgである。

#### ウ.離乳時期

代用乳給与を中止する時期は、日齢を目安に判断している。

#### エ.カーフハッチの利用

哺乳時にはカーフハッチを利用していない。

育成牛に給与する配合飼料はJ A系の和牛用飼料を給与しており、成牛では乳牛と同じ全酪系の配合飼料を給与している。

育成牛に給与する粗飼料はチモシーが主に使われ、細断せずに給与しており、成牛では稲ワラ、オーツヘイ、フェスキューを主に給与している。

飼料作物としては、夏作にソルゴー、冬作にイタリアンを作付している。

今後5年間における和牛の増頭意欲は高く、10頭程度の和牛導入による酪農主体の複合経営を目指している。

#### 4. 今後の課題

##### (1) 今回の調査では、飼育管理面で次のような問題点がみられた

専用の牛房が確保出来ず、通路などで飼育されている事例があった。

代用乳の給与は通常のマニュアルに沿って対応されていたが、母牛授乳方式において親子分離が子牛6ヵ月齢時という事例があった。

人工乳の給与は量的に少ないので検討が必要と思われた。また、人工乳という考えで育成牛用飼料が使用されていた。さらには、育成牛に搾乳牛用飼料が給与されている事例も散見されたので、発育ステージに合った飼料(種類)の使用について、周知徹底が必要と思われた。

飼いすぎによる過肥の状態が全体的にみられた。

以上のことから、和牛導入に当たっては、事前に次のことを十分に準備、検討しておく必要があるものと考えられた。

和牛飼育場所の確保

哺育、育成牛の飼育管理技術

成牛の分娩前後の飼育管理技術

乳用後継牛の生産との関連

##### (2) 今後の課題としては

先進和牛農家との技術交流の推進

和牛と酪農の共存対策の検討

酪農から和牛経営への転換時支援対策の検討

また、調査農家の和牛への関心及び増頭意欲は非常に高いことから、今後、飼育管理技術のより一層のレベルアップを図るとともに、経営転換の支援体制が整備されれば、将来、経営者が高齢化しても酪農経営から和牛経営に転換できて、畜産農家として経営存続は可能と推察された。

## 和牛導入農家の調査内容

農家番号			1	2	3	4	5	
年齢			58	74	66	75	65	
経営形態			畜産専業	複合	複合	複合	畜産専業	
複合経営作目名				水稲 3ha	水稲 4ha	水稲 2ha		
後継者の有無			有	無	無	無	無	
和牛導入年度			H14	H16	H15	H13	H15	
乳 牛 飼 育 頭 数	和牛導入前	6ヵ月齢未満	7	0	1	40	0	
		6～24ヵ月齢	8	2	9		1	
		24ヵ月齢以上	115	17	48		25	
	現況 H18.8月	6ヵ月齢未満	20	0	2			
		6～24ヵ月齢	20	0	8			
		24ヵ月齢以上	106	13	38			
	和 牛 飼 育 頭 数	H15.2月	6ヵ月齢未満	0	0	0	8	0
			6～24ヵ月齢	0	0	0	0	0
			24ヵ月齢以上	7	0	0	14	0
H16.2月		6ヵ月齢未満	0	0	0	12	10	
		6～24ヵ月齢	2	0	0	0	0	
		24ヵ月齢以上	5	0	0	12	10	
H17.2月		6ヵ月齢未満	1	0	2	7	9	
		6～24ヵ月齢	9	0	0	0	5	
		24ヵ月齢以上	5	0	2	13	15	
H18.2月		6ヵ月齢未満	9	3	3	5	13	
		6～24ヵ月齢	13	0	5	0	5	
		24ヵ月齢以上	5	0	3	3	20	
和 牛 導 入 の 動 機	経営補填							
	所得の向上							
	子牛相場が安定							
	余力がある							
	高齢化のため							
	和牛に興味があった							
	遊休農地への放牧							
その他					和牛に転換	和牛に転換		



農家番号		1	2	3	4	5
和牛導入増頭方法	ET産子の保留					
	ET産子の購入					
	子牛市場で購入					
	一般市場で購入					
	農協の斡旋					
	他県から導入					
	導入和牛産子の保留					
その他			家畜商の斡旋			
和牛の舎確保	別途に増設					
	既存牛舎の空スペース利用					
	乳牛頭数を減らした					
	放牧場の活用					
	その他				酪農廃業した牛舎利用	酪農廃業した牛舎利用
子牛の出荷方法	初乳給与後に出荷					
	1～2ヵ月齢で出荷		(IVF)			
	8ヵ月齢位で市場出荷					
	その他	繁殖・肥育一貫経営				
子牛市場出荷販売状況	去勢	頭数 頭	0		9	
		平均体重 kg	0		280	
		平均価格 千円	0		430	
	H15 雌	頭数	2		0	
		平均体重	248		0	
		平均価格	327		0	
		総平均体重	248		280	
		総平均価格	327		430	
	去勢	頭数			7	5
		平均体重			281	275
		平均価格			467	466
	H16 雌	頭数			5	2
		平均体重			236	253
		平均価格			317	377
		総平均体重			263	269
	総平均価格			404	441	
去勢	頭数	1		2	6	6
	平均体重	260		223	258	296
	平均価格	400		449	462	511
H17 雌	頭数	3		0	3	3
	平均体重	250		0	249	258
	平均価格	350		0	368	403
	総平均体重	252		223	255	284
	総平均価格	362		449	430	475

農家番号		1	2	3	4	5	
和牛の管理者	経営主						
	妻						
	子供						
	その他						
人工乳	代乳	製品名	生乳	カーフトップ	カーフトップET		
		哺乳期間 日齢	1~60	3~60	7~90		
		最大日量 kg	1.5	0.75	0.75		
		稀釈濃度 倍率		9	7		
	人工乳	製品名	ニューメイスター	ニューメイスター	ニュービーフスター		
		給与期間	7~60	7~90	7~90		
		最大日量	0.8	2.5	1		
	離乳目安	日齢	60	60	90		
		体重					
		人工乳採食日量	0.8	1	1		
カーフハッチの利用		有	無	無	無	無	
母牛授乳	人工乳	製品名	ニューメイスター		ニュービーフスター	ネオ人工乳	ネオ人工乳
		給与期間	7~60		7~90	7~90	3~120
		最大日量	0.8		1	4	4
	親子分離	日齢	60		60	60	120
		体重					
		人工乳採食日量	0.8		1	3	4
濃厚飼料の給与	育成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
	成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
濃厚飼料名	育成牛		おからくせつ	乳牛育成前、後期	ニューラビ-フ前期	そだちざかり	そだちざかり
	成牛	通常	無給与	成牛不在	おからくせつ	無給与	自家配合 68・13
		分娩前	おからくせつ	成牛不在	おからくせつ	牛じまん	自家配合 68・13
		分娩後	"	成牛不在	おからくせつ	牛じまん	自家配合 68・13

農家番号			1	2	3	4	5
粗飼料名	育成	日齢別	7~ オーツハイ	オーツハイ	オーツハイ チモシー・稲ワラ	~30フェスキュー 30~イタリアン、稲ワラ	~30ハミューダー 30~120チモシー 120~フェスキュー
	牛	細断状況	無	無	無	無	ハミューダ3cm チモシーフェスキュー 10cm
	成	通常	放牧(5~12月)	オーツハイ・稲ワラ	オーツハイ・チモシー・稲ワラ	稲ワラ・フェスキュー イタリアンストロー	フェスキュー・イタリアン
	牛	分娩前後	オーツハイ	〃	〃	〃	〃
飼育管理面での問題点	代用乳の給与量が不明						
	下痢が多い						
	子牛の発育が悪い						
	母牛の種付けが悪い						
	飼料の給与が乳牛と違う						
	その他						粗飼料の自給 優良牛の導入
今後の和牛の取り組み	和牛を増やす						
	(増頭計画)		成牛30頭 一貫経営	成牛5頭	当面は成牛10頭 将来は和牛転換		成牛25頭
	現状頭数を維持						
	和牛を減らす						
	その他						
飼料作物作付	作物名		混播牧草	エンバク			イタリアン
	(面積)ha		20	0.6			2
	作物名						
	(面積)						
	作物名						
(面積)							
和牛飼育で困っていること 問題点			今後増頭にあたって牛舎の増設が必要	育成牛の運動ができる施設が必要	収入は子牛販売のみなので不安定		粗飼料自給率向上、水田放牧増やす、周年放牧の実施

農家番号		6	7	8	9	10		
年齢		28	63	49	56	67		
経営形態		畜産専業	畜産専業	複合	畜産専業	複合		
複合経営作目名				水稲 1.2ha		ビオ-ネ0.3 トマト0.1ha		
後継者の有無		本人	無	無	有	無		
和牛導入年度		H10	H7	H16	H2	H6		
乳牛飼育頭数	和牛導入前	6ヵ月齢未満	5	62	0	34	0	
		6～24ヵ月齢	8		11		2	
		24ヵ月齢以上	40		26		19	
	現況 H18.8月	6ヵ月齢未満	3	24	2	6	1	
		6～24ヵ月齢	7	0	7	13	3	
		24ヵ月齢以上	21	46	24	38	13	
	和牛飼育頭数	H15.2月	6ヵ月齢未満	9	0	0	1	
			6～24ヵ月齢	5	0	0	2	
			24ヵ月齢以上	17	1	0	9	
H16.2月		6ヵ月齢未満	8	0	0	1		
		6～24ヵ月齢	0	1	0	2		
		24ヵ月齢以上	20	1	0	2		
H17.2月		6ヵ月齢未満	9	0	2	2	0	
		6～24ヵ月齢	0	1	0	0	2	
		24ヵ月齢以上	18	2	0	7	1	
H18.2月		6ヵ月齢未満	7	0	1	2	6	
		6～24ヵ月齢	0	1	0	0	0	
		24ヵ月齢以上	17	5	4	5	0	
和牛導入の動機	経営補填							
	所得の向上							
	子牛相場が安定							
	余力がある							
	高齢化のため							
	和牛に興味があった							
	遊休農地への放牧							
その他								

農家番号		6	7	8	9	10	
和牛導入増頭方法	ET産子の保留						
	ET産子の購入						
	子牛市場で購入						
	一般市場で購入						
	農協の斡旋						
	他県から導入						
	導入和牛産子の保留						
和牛の牛舎確保	別途に増設						
	既存牛舎の空スペース利用						
	乳牛頭数を減らした						
	放牧場の活用						
子牛の出荷方法	その他						
	初乳給与後に出荷						
	1～2ヵ月齢で出荷						
	8ヵ月齢位で市場出荷						
子牛市場出荷販売状況	去勢	頭数 頭	10	1		1	
		平均体重 kg	237	222		242	
		平均価格 千円	304	352		308	
	H15 雌	頭数	7	0		1	0
		平均体重	230	0		227	0
		平均価格	261	0		287	0
	総平均体重		234	222		234	245
	総平均価格		286	352		297	354
	去勢	頭数	6	0		1	3
		平均体重	253	0		277	251
		平均価格	451	0		497	429
	H16 雌	頭数	7	2		0	2
		平均体重	217	215		0	248
		平均価格	326	337		0	378
	総平均体重		233	215		277	249
総平均価格		384	337		497	408	
去勢	頭数	11	0		1	1	
	平均体重	261	0		301	245	
	平均価格	473	0		523	459	
H17 雌	頭数	6	2		1	2	
	平均体重	252	259		256	242	
	平均価格	388	435		373	400	
総平均体重		258	259		278	243	
総平均価格		443	435		448	419	

繁殖・肥育一貫経営

農家番号		6	7	8	9	10	
和牛の管理者	経営主						
	妻						
	子供						
	その他						
人工乳	代乳	製品名	生乳	みるくん		みるくん	生乳・しんミルク
		哺乳期間 日齢	3～90	5～90		2～100	5～30生乳 ～60しんミルク
		最大日量 kg		0.6		0.6	生乳 5
		稀釈濃度 倍率		8		6	
	人工乳	製品名		ニューメイスター		ニューメイスター	そだちざかり
		給与期間		61～90		2～100	5～90
		最大日量		1.5		2	1.5
	離乳目安	日齢	90	60		100	60
		体重					
		人工乳採食日量		1		2	
カーフハッチの利用		無	有	無	無	無	
母牛授乳	人工乳	製品名			ニューメイスター		
		給与期間			7～180		
		最大日量			1		
	親子分離	日齢	90		180		
		体重					
		人工乳採食日量			1		
濃厚飼料の給与	育成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
	成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
濃厚飼料名	育成牛		乳牛自家配合	そだちざかり	オールインワン育成16	もりもり育成	
	成牛	通常	"	乳牛自家配合	明治和牛繁殖	おからくせレクト	
		分娩前	"	"	"	"	
		分娩後	"	"	"	"	

農家番号			6	7	8	9	10
粗飼料名	育成牛	日齢別	チモシー ル-サン	14～チモシー 31～ル-サン	ハ'ミューター- 稲ワラ	チモシー 91～稲ワラ	オーツハイ
		細断状況	無	無	10cm	10cm	無
	成牛	通常	チモシー	チモシー	ハ'ミューター	放牧	オーツハイ
		分娩前後	〃	〃	〃		〃
飼育管理面での問題点	代用乳の給与量が不明						
	下痢が多い						
	子牛の発育が悪い						
	母牛の種付けが悪い						
	飼料の給与が乳牛と違う						
	その他		親子分離、 体高、体伸不足			分娩時体重が 小さい	病気に弱い
今後の和牛の取り組み	和牛を増やす						
	(増頭計画)		成牛50頭	成牛15頭	成牛10頭	成牛15頭	成牛10頭
	現状頭数を維持						
	和牛を減らす						
	その他						
飼料作物作付	作物名		ソルゴー	ソルゴー	トウモロコシ	スーダン	スーダン
	(面積) ha		1.4	12	6	4	1.2
	作物名			イタリアン		イタリアン	イタリアン
	(面積) ha			4		7	1.2
	作物名						
	(面積)						
和牛飼育で困っていること 問題点			資金対応 低コスト牛 舎和牛受精 卵入手困難 粗飼料増産	敷料が手 作業過肥に なる、放牧の 指導	稲ワラ集 め10ha	優良牛の 保留白痢	ET産子の 抵抗力弱い

農家番号			11	12	13	14	15	
年齢			56	78	45	58	50	
経営形態			複合	畜産専業	畜産専業	畜産専業	複合	
複合経営作目名			水稲 0.7ha				水稲 1.5ha	
後継者の有無			有	無	無	有	有	
和牛導入年度			H8	H14	H15	H14	H12	
乳 牛 飼 育 頭 数	和牛導入前	6ヵ月齢未満	5	0	0	3	0	
		6～24ヵ月齢	15	0	6	14	7	
		24ヵ月齢以上	36	6	19	28	23	
	現況 H18.8月	6ヵ月齢未満	6	0	0	2	4	
		6～24ヵ月齢	10	0	2	4	2	
		24ヵ月齢以上	42	5	17	28	22	
	和 牛 飼 育 頭 数	H15.2月	6ヵ月齢未満	4	1	4	1	2
			6～24ヵ月齢	0	0	0	1	0
			24ヵ月齢以上	3	5	1	1	2
H16.2月		6ヵ月齢未満	1	2	0	1	2	
		6～24ヵ月齢	0	1	0	1	0	
		24ヵ月齢以上	3	3	1	1	2	
H17.2月		6ヵ月齢未満	2	2	0	2	2	
		6～24ヵ月齢	8	0	1		0	
		24ヵ月齢以上	2	4	1	2	0	
H18.2月		6ヵ月齢未満	4	1	0	2	2	
		6～24ヵ月齢	7	0	2	2	0	
		24ヵ月齢以上	15	2	1	2	2	
和 牛 導 入 の 動 機	経営補填							
	所得の向上							
	子牛相場が安定							
	余力がある							
	高齢化のため							
	和牛に興味があった							
	遊休農地への放牧							
その他				環境対策				



農家番号		11	12	13	14	15	
和牛導入増頭方法	E T産子の保留						
	E T産子の購入						
	子牛市場で購入						
	一般市場で購入						
	農協の斡旋						
	他県から導入						
	導入和牛産子の保留						
和牛の舎確保	別途に増設						
	既存牛舎の空スペース利用						
	乳牛頭数を減らした						
	放牧場の活用						
子牛の出荷方法	その他						
	初乳給与後に出荷						
	1～2ヵ月齢で出荷	(IVF)		(IVF)			
	8ヵ月齢位で市場出荷						
子牛市場出荷販売状況	去勢	頭数 頭	1	0	2	2	2
		平均体重 kg	251	0	248	300	251
		平均価格 千円	355	0	391	456	406
	H15 雌	頭数	1	1	1	0	1
		平均体重	243	211	193	0	253
		平均価格	341	221	225	0	367
	総平均体重		247	211	229	300	251
	総平均価格		348	221	335	456	393
	去勢	頭数					3
		平均体重					274
		平均価格					487
	H16 雌	頭数					0
		平均体重					0
		平均価格					0
	総平均体重						274
総平均価格						487	
消費税抜き	去勢	頭数	0	0	1	1	3
		平均体重	0	0	227	294	245
		平均価格	0	0	422	547	449
	H17 雌	頭数	1	2	0	0	4
		平均体重	196	267	0	0	251
		平均価格	250	351	0	0	339
総平均体重		196	267	227	294	248	
総平均価格		250	351	422	547	386	

農 家 番 号		11	12	13	14	15	
和 牛 の 管 理 者	経営主						
	妻						
	子供						
	その他						
人 工 哺 乳	代 用 乳	製品名	カーフトップET		カーフトップEX	カーフトップ	生乳
		哺乳期間 日齢	7~90		7~35	7~90	1~90
		最大日量 kg	0.8		0.7	0.8	6
		稀釈濃度 倍率	7		6	7	
	人 工 乳	製品名	ニューメイスター		乳牛育成前期	ネオ人工乳	カーフマンナ
		給与期間	30~120		7~35	7~90	7~90
		最大日量	3		2	3	3
	離 乳 目 安	日齢	90		35	90	90
		体重					90
		人工乳採食日量			2		
カーフハッチの利用		有	無	無	無	無	
母 牛 授 乳	人 工 乳	製品名	ニューメイスター		乳牛育成前期	ネオ人工乳	
		給与期間	30~120		7~90	7~90	
		最大日量	3		2	3	
	親 子 分 離	日齢	120	120	90	120	
		体重					
人工乳採食日量							
濃 厚 飼 料 の 給 与	育 成 牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
	成 牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他	分娩前後のみ				
濃 厚 飼 料 名	育成牛	そだちざかり	もりもり育成	子牛づくり 乳牛育成後期	やまなみ2号	森の香り そよ風の香り	
	成 牛	通常	フスマ	子宝きらきら	無給与	フタバコンプリート	
		分娩前	子宝きらきら	"	無給与	"	
		分娩後	"	"	乳牛育成後期	"	

農家番号		11	12	13	14	15	
粗飼料名	育成	日齢別	90までプレミアチモシー出荷まで通常チモシー	チモシー	30～スーダン	チモシー	チモシー
	牛	細断状況	90まで10cm以降細断せず	無	無	無	7 - 60 2cm 60-240 5cm
	成	通常	イタリアンロール フェイスキュー	チモシー、フェイスキュー オーツハイ	スーダン、稲ワラ	自家産ロール	スーダン、稲ワラ
	牛	分娩前後	〃	〃	〃	〃	〃
飼育管理面での問題点	代用乳の給与量が不明						
	下痢が多い						
	子牛の発育が悪い						
	母牛の種付けが悪い						
	飼料の給与が乳牛と違う						
	その他						分娩前後
今後の和牛の取り組み	和牛を増やす						
	(増頭計画)		成牛30頭		成牛10頭	成牛10頭	成牛5頭
	現状頭数を維持						
	和牛を減らす						
	その他						
飼料作物作付	作物名		グリーンソレト		トウモロコシ	トウモロコシ	スーダン
	(面積) ha		4.5		0.8	1.8	2.2
	作物名		イタリアン		イタリアン	イタリアン	イタリアン
	(面積) ha		4.5		0.8	1.2	2.2
	作物名						
	(面積)						
和牛飼育で困っていること 問題点		既存牛舎の改造が必要 水稲との競合	種付け	分娩前後の飼育管理 和牛増頭と経験	発情時の鳴き声	優良牛の導入助成	

農家番号			16	17	18	19	20	
年齢			59	72	54	52	57	
経営形態			複合	複合	複合	複合	複合	
複合経営作目名			水稲 0.3ha	水稲 0.5ha	水稲 1.2ha	水稲 0.7ha	水稲 1.1ha	
後継者の有無			無	無	無	無	無	
和牛導入年度			H9	H10	H12	H12	H14	
乳 牛 飼 育 頭 数	和牛導入前	6ヵ月齢未満	4	0	0	2	0	
		6～24ヵ月齢	11	0	10	19	7	
		24ヵ月齢以上	51	33	39	35	15	
	現況 H18.8月	6ヵ月齢未満	1	0	7	9	3	
		6～24ヵ月齢	4	0	2	4	1	
		24ヵ月齢以上	22	15	32	28	18	
	和 牛 飼 育 頭 数	H15.2月	6ヵ月齢未満	0	10	0	2	5
			6～24ヵ月齢	4	1	1	2	0
			24ヵ月齢以上	2	4	2	10	0
H16.2月		6ヵ月齢未満	2	5	6	1	1	
		6～24ヵ月齢	0	5	2	3	1	
		24ヵ月齢以上	4	2	2	1	3	
H17.2月		6ヵ月齢未満	4	3	8	1	3	
		6～24ヵ月齢	3	0	5	1	0	
		24ヵ月齢以上	3	4	2	3	4	
H18.2月		6ヵ月齢未満	2	5	11	10	1	
		6～24ヵ月齢	0	5	9	1	1	
		24ヵ月齢以上	4	2	2	3	3	
和 牛 導 入 の 動 機	経営補填							
	所得の向上							
	子牛相場が安定							
	余力がある							
	高齢化のため							
	和牛に興味があった							
	遊休農地への放牧							
その他		採卵用						

農家番号		16	17	18	19	20	
和牛導入増頭方法	ET産子の保留						
	ET産子の購入						
	子牛市場で購入						
	一般市場で購入						
	農協の斡旋						
	他県から導入						
	導入和牛産子の保留						
和牛の舎確保	別途に増設						
	既存牛舎の空スペース利用						
	乳牛頭数を減らした						
	放牧場の活用						
	その他						
子牛の出荷方法	初乳給与後に出荷						
	1～2ヵ月齢で出荷	(IVF)			(IVF)	(IVF)	
	8ヵ月齢位で市場出荷						
	その他						
子牛市場出荷販売状況	去勢	頭数 頭	4	3	2	5	1
		平均体重 kg	274	240	247	275	220
		平均価格 千円	457	299	449	477	380
	H15 雌	頭数	2	1	0	2	2
		平均体重	257	241	0	235	254
		平均価格	372	526	0	322	353
	総平均体重		268	240	247	264	242
	総平均価格		429	356	449	433	362
	去勢	頭数	3	7	9	6	1
		平均体重	250	257	266	255	281
		平均価格	464	462	502	458	436
	H16 雌	頭数	3	2	6	5	2
		平均体重	238	251	240	223	263
		平均価格	369	410	367	373	359
	総平均体重		244	256	255	240	269
総平均価格		416	450	448	419	385	
去勢	頭数	6	4	5	3	2	
	平均体重	268	279	265	298	244	
	平均価格	489	494	518	518	438	
H17 雌	頭数	6	1	6	0	2	
	平均体重	247	265	225	0	261	
	平均価格	385	446	378	0	385	
総平均体重		257	276	243	298	252	
総平均価格		437	485	441	518	411	

農家番号		16	17	18	19	20	
和牛の管理者	経営主						
	妻						
	子供						
	その他						
人工乳	代乳	製品名	カーフトップET	ハビ-カーフHP	カーフトップEX	カーフトップEX	カーフトップET
		哺乳期間 日齢	7~90	5~75	5~70	5~90	7~90
		最大日量 kg	0.8	1.2	1.1	1.2	0.6
		稀釈濃度 倍率	4	5	5	5	6
	人工乳	製品名	カーフマンナ、 ニュービー-フスター	マンナメイト	カーフマンナ	ニューメイクスター	ニューメイクスター
		給与期間	2~30カーフマンナ 30~90ビー-フスター	7~90	3~120	14~90	7~90
		最大日量	2.5	2	3	3	2.5
	離乳目安	日齢	90	75	70	90	90
		体重	70				
		人工乳採食日量	2.5	2	去勢 3 雌 2.5	3	2.5
カーフハッチの利用		有	有	有	無	有	
母牛授乳	人工乳	製品名				ニューメイクスター	
		給与期間				7~90	
		最大日量				2.5	
	親子分離	日齢					90
		体重					
人工乳採食日量						2.5	
濃厚飼料の給与	育成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
	成牛	乳牛と同じ飼料					
		和牛用飼料					
		特に決めていない					
		その他					
濃厚飼料名	育成牛	90~120森の香り 120~そよかぜ	ロイヤルステップ	森の香り	ニューラクビ-フ	乳牛育成前期	
	成牛	通常	無給与	おからくせれ外	無給与	自家配合	
		分娩前	乳牛育成後期	"	ドライ 2ヶ月500g	20日 2kg	"
		分娩後	無給与	"	ドライ 受胎まで500g	無給与	"

農家番号		16	17	18	19	20
粗飼料名	育成日齢別	チモシー	20~120チモシー 120~チモシー スーダン	チモシー	~90アルファ ファースーダン 90~スーダン	クレイングラス イタリアン
	牛細断状況	~120細断 120~無	無	10cm	無	無
	成通常	自家産ロール	自家産ロール フィスケー	稲ワラロール (6ha収集)	スーダン	クレイングラス イタリアン
	牛分娩前後	"	"	スーダン3kg	"	"
飼育管理面での問題点	代用乳の給与量が不明					
	下痢が多い					
	子牛の発育が悪い					
	母牛の種付けが悪い					
	飼料の給与が乳牛と違う					
	その他			分娩前後の 濃厚飼料給与	過肥気味	子牛の粗飼料 給与量
今後の和牛の取り組み	和牛を増やす					
	(増頭計画)	成牛10頭	成牛15頭	成牛10頭	成牛10頭	成牛20頭
	現状頭数を維持					
	和牛を減らす					
	その他					
飼料作物作付	作物名	スーダン	トウモロコシ	ソルゴー	スーダン	スーダン
	(面積) ha	4	1	1.5	2	1
	作物名	イタリアン		イタリアン	イタリアン	ヒエ
	(面積) ha	4		1	4.5	1
	作物名					イタリアン
	(面積) ha					2
和牛飼育で困っていること 問題点	乳牛後継牛の確保 発情の見逃し 哺育、下痢対策	ET産子の 高騰	優良な採卵牛の確保 酪農との共存 乳牛後継牛の確保 雌雄判別 ET卵の移植	過肥、県ET卵の入手困難 育成牛舎増設 水田放牧	和牛転換での収入減 ET受胎率 周年放牧	





農家番号		21			
和牛導入増頭方法	E T産子の保留				
	E T産子の購入				
	子牛市場で購入				
	一般市場で購入				
	農協の斡旋				
	他県から導入				
	導入和牛産子の保留				
方	その他	E T移植した乳牛を導入し、産子を保留			
和牛の舎確保	別途に増設				
	既存牛舎の空スペース利用				
	乳牛頭数を減らした				
	放牧場の活用				
	その他				
子牛の出荷方法	初乳給与後に出荷				
	1～2ヵ月齢で出荷				
	8ヵ月齢位で市場出荷				
	その他				
子牛市場出荷販売状況	去勢	頭数 頭	2		
		平均体重 kg	275		
		平均価格 千円	423		
	H 15 雌	頭数	2		
		平均体重	234		
		平均価格	293		
	総平均体重		255		
	総平均価格		358		
	去勢	頭数	1		
		平均体重	300		
		平均価格	494		
	H 16 雌	頭数	1		
平均体重		235			
平均価格		360			
総平均体重		267			
総平均価格		427			
去勢	頭数	4			
	平均体重	254			
	平均価格	513			
H 17 雌	頭数	1			
	平均体重	225			
	平均価格	418			
総平均体重		248			
総平均価格		494			

農家番号		21				
和牛の管理者	経営主					
	妻					
	子供					
	その他					
人工哺乳乳	代用乳	製品名	カーフトップ			
		哺乳期間 日齢	7~90			
		最大日量 kg				
		希釈濃度 倍率				
	人工乳	製品名	ニューメイスター			
		給与期間	7~120			
		最大日量	2			
	離乳目安	日齢	90			
		体重				
		人工乳採食日量	2			
カーフハッチの利用		有				
母牛授乳	人工乳	製品名	ニューメイスター			
		給与期間	7~120			
		最大日量	2			
	親子分離	日齢	90			
		体重				
		人工乳採食日量	2			
濃厚飼料の給与	育成牛	乳牛と同じ飼料				
		和牛用飼料				
		特に決めていない				
		その他				
	成牛	乳牛と同じ飼料				
		和牛用飼料				
		特に決めていない				
		その他				
濃厚飼料名	育成牛		もりもり育成			
	成牛	通常	自家配合			
		分娩前	"			
		分娩後	"			

農家番号		21				
粗飼料名	育成	日齢別	~30チモシー 30~スーダン			
	牛	細断状況	~30有 30~無			
	成	通常	自家産ロール			
	牛	分娩前後				
飼育管理面での問題点	代用乳の給与量が不明					
	下痢が多い					
	子牛の発育が悪い					
	母牛の種付けが悪い					
	飼料の給与が乳牛と違う					
	その他					
今後の和牛の取り組み	和牛を増やす					
	(増頭計画)		成牛10頭			
	現状頭数を維持					
	和牛を減らす					
	その他					
飼料作物作付	作物名	ソルゴー				
	(面積) ha	2.5				
	作物名	イタリアン				
	(面積) ha	2.5				
	作物名					
	(面積)					
和牛飼育で困っていること 問題点		ET卵が不足				

## 和牛導入調査様式

## 酪農家の和牛導入事例調査

調査者氏名	
調査年月日	

( 1 ) 酪農家名

( 2 ) 年 齢  歳

( 3 ) 所 在 地 

市町村名	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
------	--

( 4 ) 経営形態

畜産専門経営	<input type="checkbox"/>
複合経営	<input type="checkbox"/>

該当項目に○印

畜産以外の作目名	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	

( 5 ) 後 継 者

有	<input type="checkbox"/>
無	<input type="checkbox"/>

該当項目に 印

( 6 ) 飼育頭数 頭

		6ヶ月齢未満	6～24ヶ月齢	24ヶ月齢以上	計
和牛導入前	ホルスタイン	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
	ジャージー-他	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
	計	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
現 況	ホルスタイン	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
	ジャージー-他	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
	計	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>
	和 牛	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>

( 7 ) 和牛導入の動機 (複数回答も可)

生乳価格が低迷しており、経営の補填のため	<input type="checkbox"/>
所得の向上のため	<input type="checkbox"/>
子牛相場が安定しているので取り組んだ	<input type="checkbox"/>
労力的に余力があるので取り組んだ	<input type="checkbox"/>
高齢化による経営の転換のため	<input type="checkbox"/>
和牛に興味があった	<input type="checkbox"/>
隣接した遊休農地に和牛を放牧して有効活用するため	<input type="checkbox"/>
その他 ( <input style="width: 50%; border: none;" type="text"/> )	<input type="checkbox"/>

該当項目に 印

( 8 ) 和牛導入及び増頭の方法 (複数回答も可)

乳牛に受精卵移植をして生まれた産子を保留、育成した	
乳牛に受精卵移植をして生まれた産子を購入、育成した	
子牛市場から購入した	
一般市場から購入した	
農協等の斡旋で導入した	
他県から導入した	
導入和牛の産子を保留した	
その他 ( )	

該当項目に 印

( 9 ) 和牛導入に当たっての飼育場所の確保 (複数回答も可)

導入和牛の牛舎を別途増設した	
既存牛舎の使用していないスペースで対応した	
乳牛頭数を減らして、既存牛舎で対応した	
導入牛は放牧場、パドック等で対応した	
その他 ( )	

該当項目に 印

( 10 ) 最近の和牛飼育頭数の推移

	頭			
	H 1 5 . 2 月	H 1 6 . 2 月	H 1 7 . 2 月	H 1 8 . 2 月
6ヶ月齢未満				
6 ~ 24ヶ月齢				
24ヶ月齢以上				

( 11 ) 和牛子牛の出荷状況 (該当項目に 印、複数回答も可)

初乳給与後下記へ出荷

哺育農家	肥育農家	和牛農家	農協等	その他 ( )
------	------	------	-----	---------

生まれて1 ~ 2か月間哺育し下記へ出荷

育成農家	肥育農家	和牛農家	農協等	その他 ( )
------	------	------	-----	---------

8か月齢位まで哺育、育成し、子牛市場へ出荷

その他 ( )

( 1 2 ) 最近の子牛市場出荷頭数の推移

頭

	出 荷 頭 数		
	去勢牛	雌	計
H 1 5 年度			
H 1 6 年度			
H 1 7 年度			

( 1 3 ) 和牛の飼育管理  
和牛の管理者

本人	妻	子供	親	その他 ( )
----	---	----	---	---------

該当項目に 印

哺乳方法

人工哺乳	代用乳 (ミルク)	製品名	
		給与期間	日 齢 ~ 日 齢
		給与日量	kg ~ kg ( 倍稀釈 )
	人工乳 (スターター)	製品名	
		給与期間	日 齢 ~ 日 齢
		給与日量	kg ~ kg
離乳時期 (代用乳中止)	目安	_____ 日 齢 ・ 体 重 _____ kg スターター採食日量 _____ kg	
哺乳時のカーフパッチの利用		利用する ・ 利用しない	
自然哺乳 (母牛授乳)	人工乳 (スターター)	製品名	
		給与期間	日 齢 ~ 日 齢
		給与日量	kg ~ kg
	離乳時期 (親子分離)	目安	_____ 日 齢 ・ 体 重 _____ kg スターター採食日量 _____ kg

該当項目に 印及び数字記入

飼料給与方法

育成牛	乳牛と同様な飼料給与をしている	
	和牛用の飼料給与をしている	
	特に決めていない	
	その他 ( )	
成牛	乳牛と同様な飼料給与をしている	
	和牛用の飼料給与をしている	
	特に決めていない	
	その他 ( )	

該当項目に 印

発育ステージと配合飼料

3～6か月齢までの育成牛		
6か月齢以降の育成牛		
成 牛	通常	
	分娩前	
	分娩後	

飼料名を記入

発育ステージと粗飼料

(子牛)

			細断状況
粗飼料給与開始	日齢		
	粗飼料名		
給与開始～30日齢	粗飼料名		
31～60日齢	粗飼料名		
61～90日齢	粗飼料名		
91～120日齢	粗飼料名		
121～150日齢	粗飼料名		
151～180日齢	粗飼料名		
181～210日齢	粗飼料名		
211～240日齢	粗飼料名		

(成牛)

通常	
分娩前	
分娩後	

和牛の飼育管理技術の問題点

代用乳の給与量が分からない	
下痢が多い	
子牛の発育が悪い	
母牛の種付が悪い	
飼料の給与法方が乳牛と違うので困る	
その他	

該当項目に 印



( 1 4 ) 今後 5 年間の和牛の取り組み

和牛を増やす	
現状頭数を維持	
和牛を減らす	
その他( )	

該当項目に 印

( 1 5 ) 飼料作物の作付状況

h a

作物名	作付面積

( 1 6 ) 和牛飼育しているうえで、困っている事、問題点があれば記入願います。

--